

除雪支援など重要課題が浮き彫りに 中山間地対策特別委員会が推進員さんたちと意見交換会

上越市の中山間地対策をどう進めるか。24日、市議会中山間地対策特別委員会（橋爪法一委員長）のメンバーと地域づくり推進員、中山間地域元気な農業づくり推進員、市役所の担当職員が集まって、意見交換会を開催しました。

まずは顔を覚えてもらうことから

最初に9人の推進員さんたちから活動報告をしてもらいました。まずは、顔と名前を覚えてもらうための努力です。各戸まわりだけでなく、イベント、集会に顔を出す、一緒に草刈りをする、「仕事のじゃまをしながら」見守りを



意見交換会にのぞむ集落づくり推進員と元気な農業づくり推進員のみなさん。24日、市議会第2委員会室。

する、「たっしやかね」という便りを作って配布する、推進員さんは、それぞれの持ち味を出しながら一生懸命でした。なかには、「なかなか話に乗ってもらえない」ケースもあったといえます。でも、顔を覚えてもらう努力の効果は出ます。集落づくり推進員については正式スタートから一年以上が経過し、さすがに「何者か」という声はなくなりました」そうです。

地域の人たちに心を寄せて

実際の仕事の内容はじつに様々でした。「簡易水道が壊れたので、地域の人たちと一緒に直した」「助成金の手続きを手伝った」「お年寄りたちがバス待ちのため、2時間もボーツとしているというので、バス停まで行って、一緒にバスを待ち、バスに乗ってみた。時刻表の改善につながった」「町内会長さんの協力を得て、集落アンケートを実施。いまその結果報告をしている」「地域から出て行った人たちを対象に『摘み草御膳』を食べるイベントを計画し、取り組んだ」「古い法人組織の解散の手続きを手伝った」など地域の人たちに心を寄せていろいろな取組がされていることを知りました。

活動をやるなかで確かな手応えを感じ、さらに意欲を持って前に進んでいる人たちが何人もいました。「回っている集落だけでなく、（周辺を含む）地域全体を何とかしなくてはいいけないと、盆踊りの復活に取り組んでいる」「集落は人が出入りすると活気づく。『こけ』を売りにできないかと思っている」「『母ちゃんたちはどんどん話をしてくるが、こちらは持たな



【ワルナスビ】漢字で「悪茄子」と書きます。道端や畑にいま咲いています。花や茎にとげがあり、除草剤も効きが悪い。

い。それでチームを作って一緒に暮らすことにした」「この集落を見るにしても女性の目が大事だ」次々と出される情報、考えに惹きつけられました。

意見交換で議論の対象にしたのは、①空き家、廃屋対策、②除雪、③地域おこし協力隊、④女性の視点、⑤人材確保、⑥本来に必要な支援は何か、の6項目でした。時間の関係で全部をやれずに終わってしまいました。時間が関係で全部になったものがいくつもあります。

その一つは、「地域おこし協力隊の導入について」です。「協力隊といっても受け入れ体制が重要だ。マネジメントと事務力が求められる」「単なる数値で網をかけるのではなく、手上げ方式でやるべきだ」など発言が相次ぎました。

一番求められているのは除雪支援

また、「本当に必要な支援は何か」についても活発な発言が続きました。「一番困っているのは冬季間の雪の問題だ。除雪支援は要援護者だけでなく、集落全体、集落ぐるみで考えないといけない」「かつてブルを除雪と災害対応で配置したことがある。バックホーを集落に配置できないか」「若者が雪で懲りて出ていくという現実がある。雪問題を解決しないと生活できない」「大事なものは人材をどうするかだ」等。この日の意見交換会は今後の委員会活動の柱を考えるうえでとても参考になりました。

春よ来い 第二二二回 一気読み

浜松市で開催された自治体学校へ行った時のことです。開校式の前に受付周辺で行われていた書籍市をのぞいてみました。そこで手にした一冊の本は、『お父さん、牛になる』というタイトルの児童文学でした。

私の場合、あらかじめ新聞などで本の情報を得ている場合は別として、目にとまった本は、手に取り、目次、あとがき、解説などを読み、買うかどうかを判断します。この本については、まずタイトルと表紙に描かれた牛の絵が気に入りました。

子どもの頃、「ほら、まんま食ったばっかにすぐ横になると牛になるぞ」と祖父によく叱られたものです。だから、食後、すぐ寝ることが続いていたってしまっただ話だと思っただら、この本では、サラリーマンのお父さんが本場に牛になってしまい、都会の家の中で牛を飼う物語になっていたのであります。三〇年牛飼いをしてきた私としては無関心ではられません。すぐに買い求めました。

この日は外で夕食をとり、夜遅くにビジネスホテルに戻ってから、本を読み始めました。夕食では瓶ビールを一本ほど飲んでいたのでありますが、めずらしく睡眠は襲って来ませんでしたが。本を読みたい気持ちが出ていて、眠くならなかったのです。

物語は、ある月曜日の朝から始まっています。前の晩、自分の家の和室で焼きそばを食べ、ビールを飲んで、寝てしまったお父さんが牛になっていたところからです。もちろん、家族はびっくり仰天です。

それから、お母さんとお姉ちゃん、そして「ぼく」を巻き込んで大騒ぎとなりまゝす。大量のフンと尿の後始末だけでもたいへんです。フンを人間のトイレに流しこむ、新聞紙にしみ込ませた尿はゴミとして出す。これが重労働でした。しかもこうした作業は近所の人たちに気付かれないようにしなければなりません。悪臭が出ないように、大きな鳴き声が聞こえないようにと……。

お父さんが勤めていた会社へは休みの届け出をしなければなりません。急に牛になったとも言えず、ウソの理由で休みの届けを出し続けます。でも、会社の方も疑いの目で見られるようになり、家にやっつてこようとはします。

読み始めて一時間もすれば、たいがいの本は、本からちよつと離れたくなります。しかし、この本は違いました。牛になったことで、お父さんが会社では宴会の時と野球をやる時以外ではあてにされていないことが次第に分かる。家族のなかでもそう。なんだから、牛になったお父さんがかわいそうになってきました。それに、まだ二十代の著者が牛について実に詳しいのです。牛の胃に針金とかクギなどが刺さらないようにと磁石の棒を飲ませておくとか、鼻かんのない牛をロープで引いて移動させるために、ロープの片側にふたつの輪を8の字につくって牛の鼻先と顔にはめ込むことなどは、いったいどこで知ったのでしょうか。どんどん惹き込まれて行きました。

この本の構成がまた見事でした。最後はまた人間に戻るのかと思ったら、そうはならず、牛のまま、おばあちゃんに連れられてお父さんの生まれた故郷に帰るのです。いよいよ故郷へ帰ることとなった時、お父さん牛との別れが切ない。お父さんが大嫌いだったはずのお姉ちゃんが突然泣き出して、どんな世話でもするからこのまま家においてと訴えます。「あなた……」と声をかけたお母さんに牛は、長い顔をお母さんにこすりつけ、小さく「モウ……」と鳴く。

読み終えて、時計を見たら、深夜の一時近くになっていました。

ない」と主張しました。これに答えるなかで野澤部長は注目すべき答弁をしました。同部長は「『意欲欠如』という内容は丁寧に確認する必要がある。これまで収納課にお任せしてきたが、担当課の実務として、状況把握の意味でもっと踏み込むべきと思っている。20%の在り様はもう少し詰めて整理していくべきだと思っている。払えない人は払えない、払える人からは絶対いただく。その線引きを責任と自信を持ってやることから滞納対策はスタートする」と答えたのです。この答弁がどう具体化されるか注目していきたいと思ひます。

初の災害対策特別委員会で議論

上越市議会で初めて設置された災害対策特別委員会（瀬下半治委員長）の初会合が昨日、開催されました。議題は地域防災計画の見直しです。永野防災危機管理部長が市が進めている見直し状況を説明し、若干の質疑が行われましたが、委員からは一定の評価の声とともに、「国県待ちの動きとなっている」「もっと当事者意識を持って」などといった批判の声もありました。（写真は質問する日本共産党議員団の上野公悦議員）



国保税、「払える人」、「払えない人」の線引きへ

市議会厚生常任委員会は23日、国民健康保険税などの問題を審議しました。これは上越地域高齢者協議会が、「上越市の国民健康保険税の医療給付費分と介護納付金分と比較すると、後者の方が収納率が低い」などと指摘し、国保税のことを調べてほしいと議会に陳情したことを受けたものです。

行政側が提出した資料によると、医療給付費分と介護納付金分の平成22年度分の収納率を比較すると、後者の方が90.3%で医療給付費分の92.4%より2%ほど低くなっています。また、滞納世帯の割合を見ても、介護保険第2号被保険者の属する世帯（滞納世帯割合12.0%）の方が属さない世帯（8.8%）よりも3.2%高くなっています。野澤健康福祉部長は「我々も相当議論してきた。いまの制度の中でもう少し状況把握が必要だ」という問題意識を持っている」としたものの、この原因については分析しきれていないとのべました。

滞納世帯の理由別状況（平成22年度決算）も明らかにされました。全体で2837世帯ありますが、滞納理由のトップは「意欲欠如」で51.3%、「生活困窮」や「営業不振」などの経済的な理由によるものは約20%でした。これについて日本共産党議員団の平良木議員が、「いまの生活を見たときに、大きな負担感があつて払いきれない人まで『意欲欠如』に入れるべきでは